

第2章 情報企画室図書担当

【構成員】

担当教授(兼):米永 一郎

図書係長:勝本 加奈子/図書系職員:小飯塚 猛/事務補佐員[3名]

【図書整備委員会】

委員長 准教授:木口 賢紀

委員 准教授:鳴海 康雄, 仲井 正昭

助教:宮本 吾郎, 志村 玲子, 徳本 有紀, 西崙 照和, 伊藤 暁彦

オブザーバー 教授:米永 一郎

総務課長:齋藤 茂

1. はじめに

図書室では、1800年代から今日までの材料科学に関する幅広い領域の資料を収集・所蔵している。金研が歴史的に金属・材料研究の中心であり、また全国共同利用機関であること、さらに物質・材料学では世界の最先端に位置することから、所内・学内はもとより国内外の研究者の来訪も多く、図書室は幅広いサービスを提供している。

2. 組織・運営

図書室は、図書係として金研事務部総務課に属し、係長を含む職員2名と事務補佐員3名で業務を行っている。その運営は情報企画室のもとで行われ、専門委員会である図書整備委員会と連携して進められている。

業務の特徴として、部局図書室としては唯一附属図書館本館を介さない図書購入・受領→支払→目録・分類→登録の体制を維持し、研究者へ迅速に資料を提供している。また学術情報の整備を適切かつ計画的に行うため、若手教員を中心とした図書整備委員会と連携し、利用者の視点に立った整備を推進している。

図書整備委員会は、1996年に「図書電子化小委員会」として発足し、2004年には所内委員会「図書電子化委員会」となり、2010年3月に現在の名称に変更された。委員会では、研究者の立場から専門資料の選定やデータベース環境の整備を行うと同時に、利用者への広報・ガイダンス等、図書室職員への日常的サポートを担ってきた。このような研究者と図書室とが連携して情報整備を行う委員会の存在は学内唯一であり、特筆されるべきことである。

外国雑誌価格の高騰や、二次情報データベースの多様化など、様々な問題に係る取り組みが全学的に行われる現状において、利用者ニーズを的確に把握し、かつ親しみやすい快適な図書室であるよう常に心がけている。

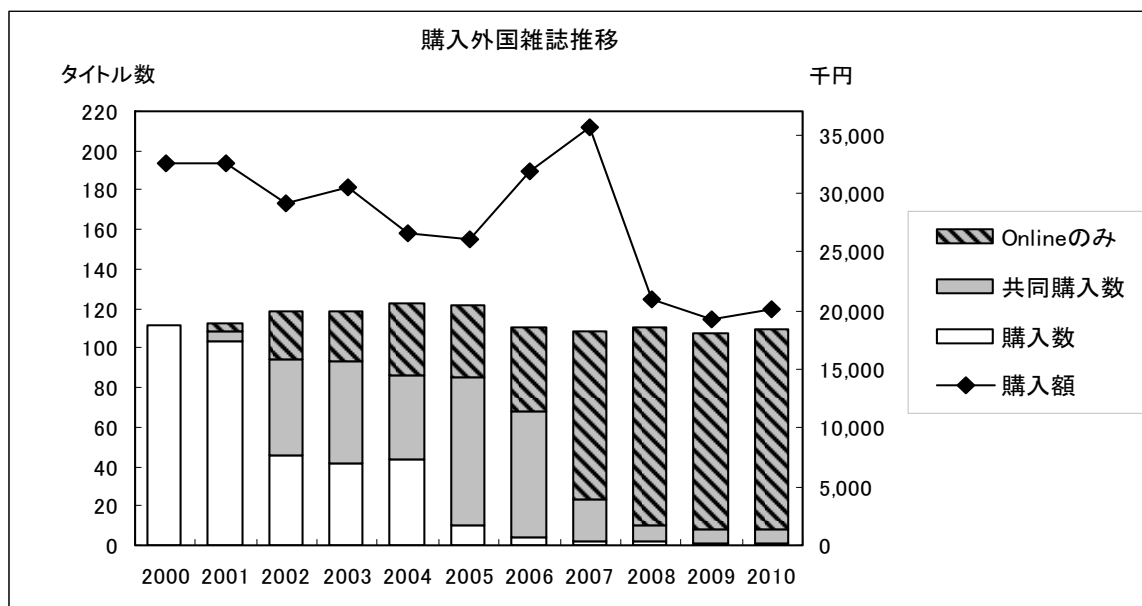
3. 購読雑誌および電子ジャーナル

東北大学では、2001年のAPS誌共同購入を皮切りに、外国雑誌を中心とした全学共同購入と電子ジャーナル整備が、附属図書館の「学術情報整備計画」の下で段階的に進められてきた。

図書室ではこの整備計画に従い、電子ジャーナルのみの契約への切り替えなど、外国雑誌購入費抑制のための努力を積極的に続けてきたが、雑誌価格の高騰は止まらず、2007年には共同購入以前の購入費を超える状態となった。しかし、2008年から電子ジャーナル経費として全学的基盤経費が2億円措置されるようになり、ようやく部局の負担が緩和された。

しかしながら、外国雑誌価格は依然として毎年約5%の値上がりが続いており、近年の円高傾向により影響が緩和されてはいるものの、さらなる対策が必要である。以前図書室で冊子体を購入していた雑誌タイトルの9割以上が、既に電子ジャーナルのみの契約になった現状においては、新しいタイトルの追加はもとより、現在利用できるタイトルの維持も難しくなっている。

図書室では、真に本所で必要とされているタイトルを見極めるため、1月に全研究室を対象に雑誌の利用頻度アンケート調査を実施した。この調査は、ホームページに電子ジャーナルリンクを掲載している欧文雑誌190タイトルと、図書室で購入している和文雑誌22タイトルのそれぞれについて、閲覧頻度を「週一回以上」「月一回以上」「年一回以上」「読まない」の4つの頻度で選んでもらうものである。この調査により金研の利用傾向をより正確に把握することができたので、今後の資料選定等に十分活用していきたい。



*Online数は共同購入のうちの電子ジャーナルのみ利用できる数

*2008年度の購入額の下落は全学的基盤経費の措置が主な要因であり、2009年度の下落は円高の影響によるものである。

高頻度に利用されている欧文雑誌（2011年1月の雑誌利用頻度アンケートより）

	タイトル	週1回以上	月1回以上	年1回以上	読まない
1	Physical Review. B. [APS]	14	9	3	3
2	Physical Review Letters. [APS]	13	10	3	3
2	Nature. [NPG]	13	10	3	3
4	Applied Physics Letters. [AIP]	13	9	4	3
5	Journal of Applied Physics. [AIP]	10	12	4	3
5	Science. [AAAS]	10	10	8	1
7	Nature Materials. [NPG]	10	12	2	5
8	Japanese Journal of Applied Physics. [JJAP]	5	14	5	5
9	Journal of Physics: Condensed Matter. [IoP]	5	12	6	6
10	Acta Materialia. [Elsevier]	9	6	5	9
10	Physica. B. [Elsevier]	6	9	8	6

4. 蔵書管理

4.1 図書の充実

限られた予算の中で常に図書の充実を図っている。継続購入としては、個々の研究者では購入しにくいシリーズものやハンドブック、データ集を主な対象としており、その他国際会議録も収集している。また、他大学への複写依頼が多い図書や、物質材料分野の基本的な図書、研究室・図書整備委員から推薦された図書等について、新刊カタログなどを参考に購入することにより充実を図っている。今年度は189点の図書を推薦により購入した。これらの新しい図書を周知するため、閲覧室に新着図書コーナーを設けた。

電子ブックの整備は随時検討しながら行っており、今年度は洋書を含む15点を新たに購入した。大学全体で利用できるタイトルも大幅に増え、その利用数は大学全体で急速に伸びている。2010年は複数の電子書籍端末が発売され、「電子書籍元年」と呼ばれた。現在は一般書籍を中心に流通が始まっているが、今後は学術資料においても電子ブックの役割が大きくなると思われる。

4.2 蔵書点検

毎年2回、書庫の蔵書点検を定期的に行い、不明図書・発見図書の確認や配架整備を行っている。

4.3 金研出版物の保存

金研で発行する報告書や広報誌などは、可能な限り図書室で収集し、保存している。また、それらに対する問い合わせも増えていることから、過去に発行されたものについても収集していきたいと考えている。

5. 利用者サービスの充実

利用者との距離が近い部局図書室の利点を活かし、利用者にとってより身近で、行き届いたサービスを提供するよう、スタッフ全員で努力している。

5.1 利用者向け講習会

毎年4月、金研の新構成員のために図書整備委員を講師として、主要なデータベースの講習と図書室のオリエンテーションを行っている。今年度は39名の参加があった。内容は毎年見直しを行っており、今回は論文データベース『Scopus』を対象に加えて周知に努めた。

さらに、各種データベースの説明会開催も、機会を捉えて積極的に協力し、学生や研究者がより効率的に利用できるようサポートしている。

開催日	内容	主催	参加者
2010.4.23	金研図書室オリエンテーション (13:30-15:00) 第1部 図書室オリエンテーション ・ 図書室の設備と基本的なサービス ・ 資料の検索と入手のコツ 第2部 各種データベースの使い方 ・ ICDD Cards ・ Alloy Phase Diagrams Online ・ ICSD ・ Scopus , Web of Science ・ GeNii	図書整備委員会, 図書係	39名
2010.7.2	SciVal Spotlight 説明会	附属図書館	12名
2010.10.1	若手研究者のための Author Workshop (14:00-17:00) ・ジャーナルエディターからみたよい論文とは ・Scopus, 電子投稿ツール EES 紹介 ・校閲者からみた英語論文執筆のコツ	GCOE, エルゼビア社	106名

5.2 情報検索コーナー

図書室では図書整備委員会のサポートを受けながら、多くのデータベースの中から有用なものを厳選し、図書室の情報検索コーナーで利用者が常時使えるように環境を整えている。またパソコンの安全対策として、ウィルスチェックソフトとハードドライブシールドソフトを導入している。近年、データベースのオンライン化を進め、研究室から利用できる環境が整ってきているが、契約上図書室でしか使えない重要なツールもあり、今後も情報検索コーナーの充実を進めていきたい。

オンライン	CD-ROM
Alloy Phase Diagrams Online	Binary Alloy Phase Diagrams
ICSD	ICDD Cards (Powder Diffraction File)
International Tables Online (2010年導入)	Pauling File
Phase Equilibria Diagrams Online	Pearson's Crystal Data
Scopus	CRC Handbook of Chemistry & Physics
Web of Science	鉄鋼便覧
Journal Citation Reports	その他
SciFinder Scholar	
GeNii (CiNii, KAKEN 等)	
その他	

5.3 「情報検索の手引き」の発行

前述のような研究活動に欠かすことのできない各種ツールの有効利用に供するため、図書整備委員会と図書係では、冊子「情報検索の手引き」を1997年以来隔年で作成しており、今年度は3月に第7版を発行した。表紙をカラー化することで、見た目も美しく利用しやすくなった。

「手引き」は各研究室やオリエンテーション参加者に配布するほか、図書室の情報検索コーナーに備え付け、いつでも参照できるようにしている。研究者である委員が実体験に基づいて執筆したマニュアルは、金研の構成員にとって真に有用であり、大変好評である。今後もより使いやすい「手引き」へとブラッシュアップを行っていきたい。

5.4 ホームページの充実

図書室では、有用な情報をいち早くキャッチし、「お知らせ」での広報やリンクを作成するなど、充実したホームページとなるよう心掛けている。

特に電子ジャーナルのリンク集（金研版）は2か月毎に係員全員でリンクチェックを行うなど、きめ細かなメンテナンスを行い、利用に支障のないようにしている。また、各サービスの利用案内やデータベースに関するQ & Aなども掲載し、利用者の疑問がホームページ上ですぐに解決できるよう充実を図っている。

さらに、他にあまり例のない国際会議録のページについては、金研に関連する44の会議について、過去の会議録を追跡調査し、最新の所蔵情報も継続して掲載するようメンテナンスを行っている。

5.5 「金研図書室だより」の発行

学術情報や図書室の最新情報をお知らせするため、「金研図書室だより」の発行を開始した。ホームページにも最新情報を掲載しているが、個々の利用者に図書室をより身近に感じてもらえるように、印刷物として発行している。



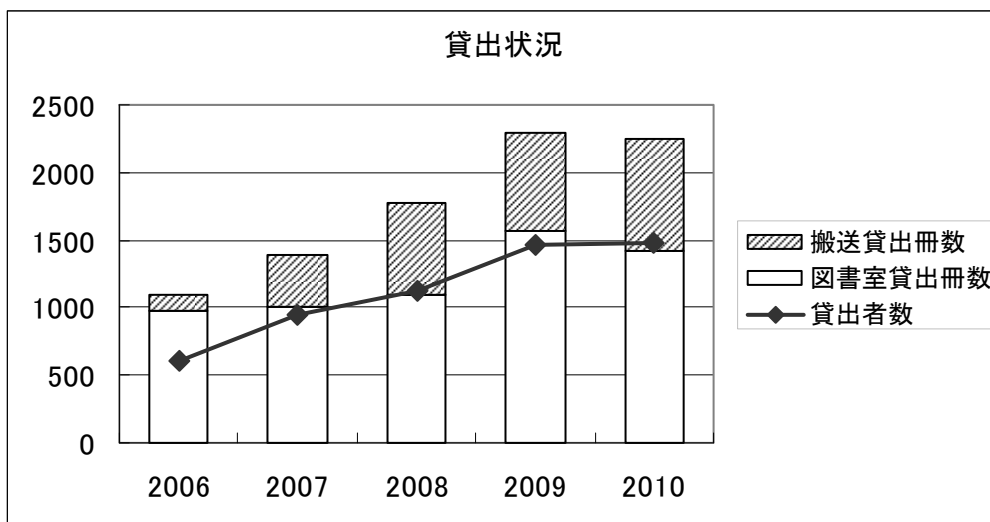
5.6 資料の貸出

電子ジャーナルやデータベース等、デジタル・コンテンツの利用が増大する一方で、冊子体である図書の貸出も増加傾向にある。今後も有用な図書の充実に一層努め、利用に供していきたい。

また、2007年度から本稼働したキャンパス間資料搬送サービスの利用も伸びている。このサービスは、他館の図書を金研の図書室へ取り寄せて貸出・返却を行うもので、他キャンパスはもとより、片平地区内にある他の研究所図書室資料についても利用でき、利用者には大変好評である。今年度は、図書館本館や工学分館を主とした他館からの受取が633冊、金研からの発送は223冊、金研から各館への返送は1,004冊で、いずれも昨年度より増加した。

貸出手続きをより簡便に行うため、2月に自動貸出装置を導入した。貸出処理のためには、資料表紙の外側にバーコードを貼る必要があり、書庫の図書約6,100冊について事前作業を行った。自動貸出

装置は学内では既に図書館本館や工学分館で導入されており、よく利用されている。当面は通常時間中のみ起動し、利用者への周知を図っているが、今後は閉室している夜間・休日についても利用できるように調整中である。



5.7 利用環境・施設の整備

1994年に設置した書庫の電動集密書架は導入後16年が過ぎ、昨年に続いて今年度も8月に故障が発生した。原因は基板の劣化であり、更新作業が必要である。そのため、昨年度から所長裁量経費の配分により順次改修工事を行っており、これまで4ブロック中3ブロックのリプレイスを終えた。残りの1ブロックについても早急な更新が必要である。

その他、冬季の「ひざかけ」貸出の開始や、資料保存のための書庫西側窓への紫外線防止フィルム貼付など、図書室の利用・設備環境の改善を行った。



電動集密書架の故障とリプレイス作業中の様子

5.8 その他

他の部局図書室と同様に、これまで昼休みはカウンター業務を休止していたが、4月から1年間職員が当番制で業務を行う試行を実施した。試行の結果、一定の利用需要があることが確認できたため、来年度から正式に実施することとなった。

2007 年度にグローバル COE の英語教育強化に基づき導入した英語の e-ラーニング教材「NetAcademy2」について、教育支援という観点から利用者登録を図書室で行ってきたが、2 月にサーバが教育情報基盤センターに移設されると同時に、東北大 ID による全学サービスへ移行した。なお所内には、英語教育用のスペースとして 2 号館 303 号室に教育プログラム室が設けられている。

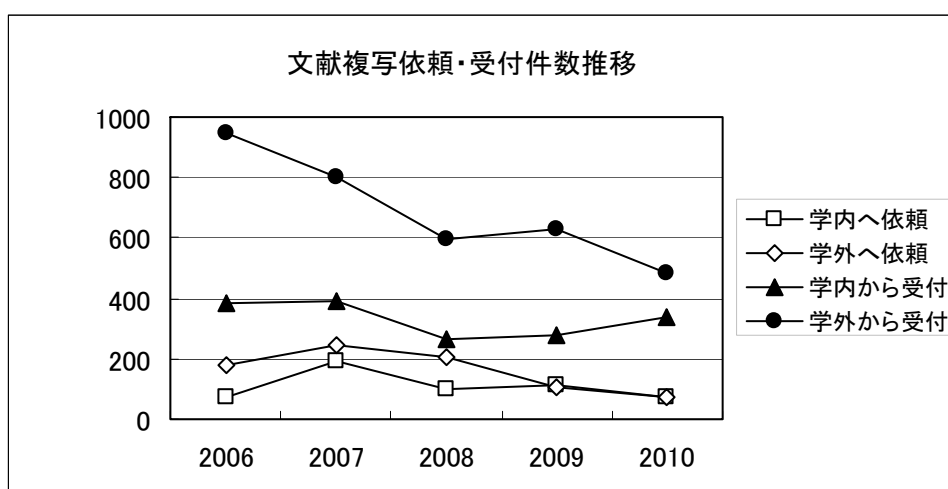
6. 文献複写・現物貸借（図書館間相互利用サービス）

学内の各図書館および学外の大学図書館との相互の文献複写サービスは、金研においては研究遂行上、学術雑誌論文が欠かせないため、重要な業務の一つとして、必要な論文を依頼から 1 週間以内に利用者へ手渡せるよう迅速に処理している。ただ、学術雑誌の電子ジャーナル化の影響で全国的に文献複写の件数は減少傾向にあり、金研においても同じである。特に学外からの複写受付件数は近年大幅に減少しているが、これは本学の学術情報整備計画により、外国雑誌の冊子体を段階的に中止してきたためと考えられる。しかし、このような状況の中でも、今年度の他館からの受付件数は本所から他館への依頼件数の 5 倍以上である。このことは、金研の学術雑誌コレクションの充実度を示すと共に、全国共同利用・共同研究機関としての使命達成に貢献しているといえる。なお、学内からの複写受付件数の増加は、多元物質科学研究所図書室が昨年から移転準備中で、資料を利用できないことが主な要因と思われる。

また、文献を画像化してオンラインで送受信する画像伝送システムも利用されている。著作権法や出版社許諾の範囲内という制約はあるが、学内限定で行っている e-DDS (Electronic Document Delivery Service) は、研究室に居ながらにして申し込み、迅速に受け取りができるため、利用者に好評である。

長年の懸案であった他大学図書館との図書現物の貸借について、これまで図書館本館に代行を依頼していたが、利用者の利便性を考慮して 9 月から金研での試行を開始した。図書館の相互利用制度 (ILL: Inter-Library Loan) は、「相互」に提供し合うことが原則であるため、金研の図書室資料についても他館の依頼に応じて貸出を行っている。文献複写と同様に、学外への貸出件数が多い。

今後の課題としては、私費払いへの対応が挙げられるが、引き続き検討中である。



7. 東日本大震災の被害と復旧

3月11日に発生した東日本大震災で、多数の雑誌・図書が落下し、一部の書架が転倒するなどしたが、幸い利用者・職員とも人的な被害はなかった。建物の安全が確認された3月23日から片付け作業を開始し、3月末には3号館書庫を除く閲覧室・書庫の復旧と安全確認が完了した。閉室中は図書室の新聞を1階講堂に置き、自由に閲覧できるようにした。

閲覧室では、資料の落下は主に低書架からであり、落下防止器具を取り付けた高書架からはほとんど落ちなかった。書庫の電動集密書架は、地震で開いた狭い通路に多数の資料が落下して堆積していた。密接している棚でも資料が中で動いており、通路を開ける度に次々と資料が落下する状況で、復旧作業は困難を極めた。3号館書庫は4階にあり、高書架に落下防止器具を付けていたが、落下資料の総数は多かった。さらに、棚間上部を連結せず壁固定のみを施していた書架1連が倒れ、また配架資料の少ない軽い書架が動いて蛍光灯が割れる等、被害が大きかった。落下した資料は、表紙がはずれる、ページが破れる等の破損も多く見られた。

このような被災状況ではあったが、学内の他の図書館・図書室と比較すると金研の被害は格段に少なく、早期に復旧することができた。立地や規模の差もあるが、この数年間で棚の固定や落下防止等、安全対策を強化していたことが功を奏したと思われる。今後も利用者の安全を確保するため、さらなる対策を図っていきたい。



部屋	落下冊数	復旧作業	備考
閲覧室 (2号館2階)	112冊	3/23	棚の落下防止バーが有効に作動
書庫 (2号館2階)	620冊	3/23-24	停電と揺れにより集密書架間の複数の通路が開く
閉架書庫 (1号館2階)	123冊	3/25	
3号館書庫 (3号館4階)	1,831冊	4/4-27	棚の落下防止バーが有効に作動 壁際の書架1連転倒 書架の移動により蛍光灯器具1台破損

合計 2,686冊 (破損80冊)

8. その他

研究支援の役割を確実に果たし、また利用者のニーズに応えた多様なサービスを提供するため、図書室職員は各種研修会に積極的に参加している。また図書系職員として、図書館本館が中心になって進めている各種委員会やワーキンググループのメンバーの一員として活動している。

8.1 研修等

- ・大学図書館職員長期研修
- ・NAIST 電子図書館学講座
- ・目録システム地域講習会（図書コース）
- ・図書館職員総合研修
- ・事務情報化講習会

8.2 各種委員会、ワーキンググループ、会議等

- ・図書館情報教育支援 WG
- ・次期図書館システム検討 WG（2010.12 システム更新）
- ・附属図書館部課長打合せ
- ・全学図書系係長等会議
- ・附属図書館商議会（陪席）
- ・附属図書館運営会議（陪席）
- ・学術情報整備検討委員会（陪席）
- ・分野別資料選定 WG（陪席）

9. 統計（平成 22 年度）

■施設

総面積	書架総延長	図書収容能力	総閲覧座席数	パソコン台数
534 m ²	2.38km	6.6 万冊	50 席	6 台

■資料

		和書	洋書	合計	
蔵書	蔵書冊数	18,472 冊	64,144 冊	82,616 冊	*開架冊数:47,259 冊
	年間受入冊数	236 冊	371 冊	607 冊	
雑誌	雑誌種類数	427 種	971 種	1,398 種	
	年間受入雑誌種類数	176 種	134 種	310 種	
	電子ジャーナル数(全学)	439 種	13,212 種	13,651 種	
	新聞種類数	7 種	2 種	9 種	

*蔵書は研究室貸出分や製本雑誌を含む

*受入：購入・受贈・保管場所変更等により図書室の蔵書として登録すること

■サービス

開室日数	サービス対象		入室者	貸出	文献複写		現物貸借	
	教職員	学生		貸出 (搬送)	依頼	発送	借用	貸出
225日	474 人	215 人	17,281 人	2,275 冊 (829 冊)	151 件	819 件	1 件	11 件

*3/11 に発生した東日本大震災のため、3/12-31 は閉室